

田舎に泊まろう 売りは自然

常客確保へ体験メニュー 農泊・渚泊広がる

人口減少の進む農村や漁村に泊まり、住民と触れ合う農泊や渚泊が東海地方で広まってきた。地域の魅力を感じられる体験メニューをそろえ、リピーター確保につなげるねらいがある。

津市南西部にある美杉地域の住民らは近く、空き家などを使って農泊や民泊を始め、年度内に10施設まで増やす。有機野菜の収穫や山林の伐採といった体験メニューをそろえる。宿泊や体験予約は、2016年にできた「Inaka Tourism推進協議会」が受け付ける。

面積の9割近くを森林が占める美杉地域は、3月時点の人口が約4400人。過疎化が進み、この20年で4割超減った。そこで、農泊によって

リゾート企業も協力

観光客の送迎や、シーツや浴衣の調達は協議会事務局を務める「美杉リゾート」が担う。約100室の温泉宿泊施設を運営する会社だが、施設の年間宿泊者数は約6万人。ピーク時の5分の1だ。中川雄貴社長(34)は「農泊を推進すれば、会社にとって短期的にライバルをつくることにな

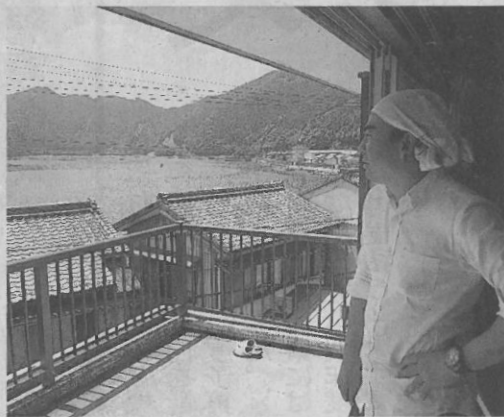
地区の存続にも期待

三重県尾鷲市の須賀利地区では、居酒屋運営会社ゲイト(東京)が市や漁協と渚泊の準備を進めている。同社は現地で定置網漁と水産加工を手がけ、空き家4軒を買い取った。このうち従業員が住む1軒を使って、来年度から渚泊を本格的に始める。「売り」は漁業体験のプログラム。午前4時に出漁し、取った魚を食べたり、干物にしたりする。

でも、そんなことを言うていけないほど地域の衰退が進んでいる。宿泊者を増やして経済を活性化したい。同社も空き家の古民家を探し、農泊を始める計画だ。



①間伐するInaka Tourism推進協議会のメンバー。体験メニューに間伐を組み込む計画だ＝津市美杉町
②居酒屋運営会社「ゲイト」が買い取った空き家。2階のベランダから海が一望できる＝三重県尾鷲市須賀利町



■農泊や渚泊を後押しする国の交付金を受け取る主な団体

愛知県	新城市	特定非営利活動法人奥三河田舎暮らし隊
	豊田市	とよたグリーンツーリズム推進協議会
	中津川市	加子母森林組合
岐阜県	郡上市	郡上民泊推進協議会
	恵那市	奥矢作移住定住促進協議会
	津市	太郎生の美しい棚田・里山等を生かした地域づくり推進委員会
三重県	鳥羽市	鳥羽渚泊推進協議会
	大紀町	大紀町地域活性化協議会

※2017年度の採択分

五月女圭一社長(46)は「地域には、観光客がリピーターになる魅力的な自然がある。利用者が将来的に移住すれば地区の存続にもつながる」。

政府は20年までに500地域で農泊や渚泊ビジネスを整える目標を掲げ、農林水産省には農山漁村振興のための交付金がある。農泊ビジネスの実施体制をつくることや体験メニューの開発などで1団体につき2年間で上限計1200万円を交付する。東海3県では17年度に13団体が採択された。(細見るい)